

生物学は面白い — 高校生バイオサミット in 鶴岡 —

◇期 日 令和元年 7 月 29 日(月)～31 日(水)

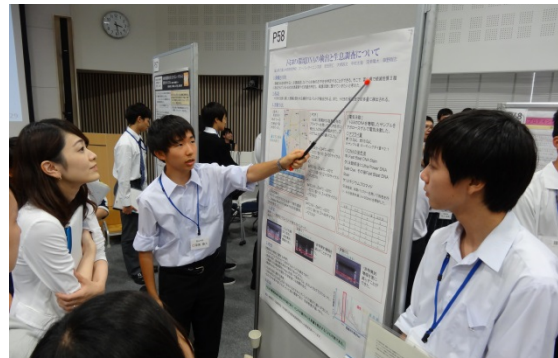
◇場 所 鶴岡市先端研究産業支援センター(鶴岡メタボロームキャンパス)
(山形県鶴岡市)

◇参加者 中村太海(36H)・深美陽大(37H)

◇指導者 真野佳余先生

7 月 29 日(月)～31 日(水)の3日間、第9回高校生バイオサミット in 鶴岡の、全国から 1 次審査を突破した 75 の研究グループが、慶応義塾大学先端生命科学研究所のある鶴岡市に集結した。

初日には研究発表が行われた。本校からは SS 生物部の2名が環境DNAという最先端の技術を用いて行ったトミヨの生息調査について発表した。県内では絶滅危惧Ⅱ類に指定される希少な魚類・トミヨの分布を解明することを目的とした研究だったが、環境DNAの検出が困難であり、思うような結果が出せず苦勞した。残念ながら賞は得られなかったが、高度な研究発表会に参加して、全国レベルの発表を聞くことができ、非常に有意義であった。また、研究者や大学院生の方々から研究に関する指摘やアドバイスをもらい、よい経験となった。



2日目には慶応義塾大学教授の富田勝氏による講演を聞いた。富田氏はコンピュータプログラミングが専門であったが、研究途中で限界を感じたため生物学に身を転じた研究者で、「わからないことの方が多いからこそ生物学は面白い」という言葉には大いに首肯するばかりであった。未知なる事象

の多い生物学にさらなる魅力を感じたとともに、生涯生物学の研究に携わりたいと感じた。また、クモの糸を人工合成して作られたジャケットの開発で話題になった Spiber 社を見学した。将来的には彼らのようにグローバルに活躍し、科学の世界を牽引するような研究者になりたいと思った。



3日目は、表彰式・閉会式の後、クラゲの飼育で世界的に有名な鶴岡市立加茂水族

館でのクラゲの学習会に参加した。お願いをして特別にミズクラゲを素手で触らせてもらい、その感触に感動した。また、ノーベル化学賞を受賞された下村脩博士が発見されたGFPをもつオワンクラゲをはじめ、多種類のクラゲの、それぞれの特徴を活かした美しい展示に魅了された。



高校生活という限られた時間の中で、まとまった研究結果を出す

のは困難である。また、1 人で研究していくのは時間的に困難であることに加え、偏った見方に陥りやすく危険である。そのような中で、今回の研究では信頼のおけるパートナーがいて、研究をするのにすばらしい環境に身を置くことができ、本当に恵まれていたと思う。今回の発表会での学びを活かし、将来も研究に取り組み、成果をあげていきたい。